

ラジオ波による 深部温熱を操る。

深部熱・温熱効果

疼痛の改善

筋痙縮の改善

関節性拘縮の改善



ラジオ波温熱セミナー **東京**

～ラジオ波遠隔アプローチ理論～

ラジオ波遠隔アプローチ理論とは、「ラジオ波が抵抗の高い場所に温熱効果が集まる」特性を活かし、プローブを直接患部に当てずに治療する理論を用いたテクニックです。

テーマ 頸部編 (座学 + 実技)

頸部周辺筋の緊張が原因による
頭痛へのアプローチ

日時 2024年1月20日 (土)
18:00～21:00 (受付 17:30～)

場所 酒井医療株式会社 本社
新宿区山吹町 358-6

参加費 3,000 円 **定員** 15 名

(1 施設 2 名様まで)

当日のご連絡先：080-5940-5638 (ノナカ)

テーマ 肩編 (座学 + 実技)

ラジオ波遠隔アプローチ理論を用いて

日時 2024年1月21日 (日)
10:00～13:00 (受付 9:30～)

場所 酒井医療株式会社 本社
新宿区山吹町 358-6

参加費 3,000 円 **定員** 15 名

(1 施設 2 名様まで)

当日のご連絡先：070-3830-0820 (タグチ)

講師紹介



小林伸勝 (nobukatsu kobayashi)

・伸整骨院（大阪府）院長
・柔道整復師

お申し込み



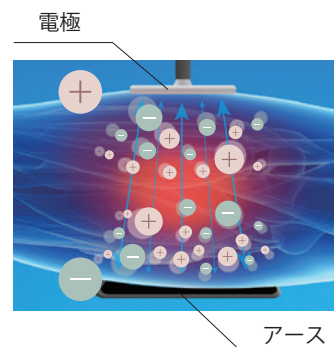
お申し込みは左の QR コード、
または当社ホームページの
セミナー一覧より
お願いいたします。

必要情報のご登録をいただくため、お電話からのお申し込みは
いただけませんので何卒ご了承ください。

「抵抗の高い場所に温熱が集まる」特性

ラジオ波温熱の原理

電極とアースで体をはさみ、+極と-極を 1 秒あたり数十万回変化させて体内の分子を振動させることで、分子同士の摩擦熱（ジュール熱）を発生させることで体を温めます。体外から熱を与えるのではなく、体内で熱を発生させる深部加温が可能です。そして従来の温熱機器と大きく異なるのは「抵抗の高い場所に温熱が集まる」というラジオ波の特性にあります。



2種類のプローブで様々なアプローチを実現

軟部組織

筋肉	筋膜	
腱膜	血管	リンパ



硬組織

靭帯	腱	
関節	骨膜	骨



高い疼痛緩和効果と 温熱持続性の実証

15 分の施術で、温熱の届く深さは 5~10cm、体内温度を 3~5℃高めます。施術後も体内温度はすぐに下がることなく、3~4 時間維持される特長を持っています。腰痛を含めた様々な疾患に苦しんでいる患者※の 81%に対して痛み
の軽減に高い効果が認められています。



※ 引用文献：腰痛に対する静電容量の電気転送温熱療法の臨床効果

Clinical Effect of Capacitive Electric Transfer Hyperthermia Therapy for Lumbago

Kuniyasu Takahashi1), Tetsuo Suyama1), Makiko Onodera1), Shigeru Hirabayashi2), Nobuyuki Tsuzuki2), Li Zhong-Shi2) 1) Department of Rehabilitation, Saitama Medical Center, Saitama Medical School, Kamoda-Tsujidoumachi 1981, Kawagoe City, Saitama 350-8550, Japan 2) Department of Orthopaedic Surgery, Saitama Medical Center, Saitama Medical School J.Phys.Ther.Sci.11:45-51,1999 © The Society of Physical Therapy Science

一般的名称：超短波治療器 フィジオラジオスティムプロ 医療機器承認番号：231008ZX00107000